

日本文化論叢

(第七届中日韩文化教育研究国际研讨会论文汇编)

第七辑

顾问 陈 岩

主 编 刘利国

副主编 孟海霞



大连理工大学出版社

日本文化論叢

RIBEN WENHUA LUNCONG

(第七届中日韩文化教育研究国际研讨会论文汇编)

第七辑

顾 问 陈 岩

主 编 刘利国

副主编 孟海霞



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本文化论丛. 第七辑 / 刘利国主编. — 大连 :
大连理工大学出版社, 2017. 10

ISBN 978-7-5685-1013-4

I. ①日… II. ①刘… III. ①文化—日本—文集②日
语—教育—文集 IV. ①G131.3-53②H369-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2017)第 175114 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 传真:0411-84701466 邮购:0411-84708943

E-mail: dulp@dlutp.cn URL: <http://dulp.dlut.edu.cn>

大连永盛印业有限公司

大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:140mm×203mm
2017 年 10 月第 1 版

印张:11.75 字数:419 千字
2017 年 10 月第 1 次印刷

责任编辑:钟 宇

责任校对:牟雯雯 姜慧颖 李王虎
封面设计:董振巍

ISBN 978-7-5685-1013-4

定 价:49.00 元

本书如有印装质量问题,请与我社发行部联系更换。

第七届中日韩文化教育研究国际研讨会于2015年10月31日在大连外国语大学召开,由本次研讨会上发表的论文精选而成的论文集也即将付梓出版。

围绕“东亚地区多元文化共存与日语教育、日本研究”的大会主题,日本同志社大学名誉教授玉村文郎先生就《日语中的“汉”因素》、东京大学名誉教授尾上圭介先生就《发挥日语研究在实现价值观共性方面的作用》、韩国新罗大学崔光准教授就《〈万叶集〉与古代东亚》、上海外国语大学许慈惠教授就《如何提高大学外语教师的教育能力》、大连外国语大学刘利国教授就《生态伦理学视阈下的宫泽贤治自然观解读》在大会上做了主题演讲。本次大会有来自中国、日本、韩国的近百名日语教育、日本文化研究者参加,与会者围绕会议的主题,分为四个分科会场进行了热烈、务实的交流。

2010年之后,日语教育有了新的变化。在招生方面开始试行大类招生。同时,各高校开始有意识地控制日语专业的招生人数。教育部外语类专业教学指导委员会日语教学指导分委员会正积极地制定日语专业国家标准,修订推出新的教学大纲,从课程设置到教学内容等各个方面对日语教育提出新的要求。在这种情况下,如何进行复合型外语人才教育,将成为新的课题。

从本次研讨会的主题和讨论内容看,其特点可以用“求新务实”四个字概括,具体体现如下两个方面:

1. 关注新形势下日本研究的各个方面

将日本研究的现状与国内外形势相结合，尤其是与当代东亚各国社会现象结合，使研究符合时代特点，具有创新性。老龄化、婚恋观等社会问题都进入了研究视野。在语言学领域中，也出现了以当代电视剧中的数据为例进行分析的论文。

2. 关注日语教育过程中出现的新问题

这些新问题包括探讨国际化交流中的留学问题、教师作用问题、教师评价问题以及学生自我评价问题、学习意识问题、情境式教学问题、测试问题等。研讨会上，关于教学的论文都结合了各自高校的教学实践，立足于教育现场，真正实现了实践形成研究、研究作用于实践的相辅相成。

如今，随着国际形势的不断变化和科技的不断进步，日语教育也面临新的课题。如何面对新形势下的学生，需要在专业定位、人才规格、课程设置、教材建设、教学法、评价体系等各个层面实行改革。想要真正做到在发扬传统的基础上务实创新，还有很长的路要走。同时，也需要国内外专家学者，特别是中日韩三国日语教育者进一步努力。

是为序。

陈 岩

2017 年初夏吉日

目 录

日语语言学

授受補助動詞文「てくれる」と「てもらう」の丁寧さ		
—依頼に於ける運用から—	関根和枝	2
日本語における disagreement		5
—ドラマ『半沢直樹』のデータをもとに—	肖婷婷	15
五段動詞「蹴る」の命令表現について		
—「蹴ろ」の成り立ちをめぐって—	呂汝泉	27
中日大学キャンパス言葉の対照研究		
—語構成を中心に—	張黎	40
类型学視閥下日汉使役和被动语义接近现象对比研究	高越	56
日本語の話し言葉における迷感受身の使用状況に関する一考察		
	魯詩語	67
機械翻訳で「だけ」を中国語に翻訳する場合の問題点		
—「に+だけ」の否定文を翻訳する場合—	李璠	78

日语教学

中日韓における短期留学の可能性	三門準	92
英日専攻学生の意識調査と教育方法の検討		
	久保輝幸 段皓宇	104

外国語教育における「2次誤用」試論	李東哲	117
日本語教師の評価問題について	孟海霞	129
不同水平的日语课堂中纠错反馈的使用差异	刘晓颖 王冲	138
日本語教育における自己評価と自律学習		
——スキップオールディングの観点から——	金藝蘭	149
多文化共生における日本語教育		
——教師の役割について——	徐艷華	160
「カルチャー・クエスト」における異文化		
コミュニケーションの教育実践理論	孫妍	169
新理念指导下的日语视听课情境式教学实践与反思	杨彩虹	182
Can-do の達成度を測る「基礎日本語」テストの改善	孟憲娣	189
基于建构主义理论的实用型 IT 日语人才职业生涯规划研究		
——以日语方向为中心——	李芳	200
高等教育国際化の背景下における涉外担当者の職業能力について		
	劉新顔 李芳 張生芳	208
中国人日本語学習者による条件表現の使用実態に関する考察		
——「なら」の使用を中心に——	宮辛未	215

日本文学

『剪燈新話』『申陽洞記』の日本怪異小説への影響		
	崔香蘭	226
女性文化視域下的《挪威的森林》	王昕	239
尊严的回归与失落——芥川龙之介《鼻子》刍议	王明庆	249
谷崎潤一郎の『春琴抄』論	安勇花	258

世の中の悲劇と喜劇

—張愛玲『傾城の恋』とジェイン・オースティン

『高慢と偏見』の比較的研究— 孟婷婷 271

女性作家が描く若者の孤独と成長

—『キッチン』と『ひとり日和』を中心に— 呂梦涵 282

芥川龍之介の「仙人」における『聊斎志異』の変容研究

劉曉霞 292

日本文化

日本における高齢者の余暇生活をめぐって

—北九州市での調査をもとに— 李東輝 306

雨森芳洲の国際相对主义

李美花 320

中国近代における国民の「奴隸根性」について

—魯迅の作品を視点に— 王妮 328

日本家庭教育中“母教”特点的剖析及与启示

赵萍 341

中日女性婚恋观对比研究

袁芳 350

全媒体时代背景下中日认同观念的构建

刘雪林 359

日 语 语 言 学

あ

授受補助動詞文「てくれる」と 「てもらう」の丁寧さ

—依頼に於ける運用から—

関根和枝

要旨：本研究は、授受補助動詞「てくれる」と「てもらう」で、実際に依頼で運用する際に丁寧さが違う事について、コーパスと日本語学習者による「依頼のEメール」を例示しながらその理由を考察するものである。日本語母語話者の依頼に於ける両表現の認知的差異を指摘し、学習者がその差異を知らずに使った丁寧度の低いEメール文を示して、従来の研究に無い「依頼から行為実現への当然性」という新たな丁寧さの観点を指摘する。

キーワード：依頼〈事態把握〉 「てくれる」文 「てもらう」文 当然性
丁寧さ

1. はじめに

授受補助動詞「てくれる」と「てもらう」を使用した、行為の授受を表す文（以下、「てくれる」文と「てもらう」文）は、話者や書き手の「私」がその授受の事柄に関与する場合、どちらも「私」が行為者からの行為の影響で受益をすることを表す。「てくれる」文と「てもらう」文は、「私」が行為者を恩恵の与え手と見做しどちらも感謝や敬意を表現できると一般には考えられて

いる。そのため日本語を学ぶ中国人学習者は両表現の使い分けに迷う。しかし実際に相手に行為を依頼する場合、日本語母語話者は「てもらう」の方が「てくれる」より丁寧だと感じる。^[1]

(1) 乗り物の中で

- a. すみません、席を譲ってくださいませんか。
- b. すみません、席を譲てもらえませんか。

(1) のような依頼の際には、行為者の行為から受益したい話者「私」は失礼な感じを与えてはならない。本研究では依頼の際の「てくれる」と「てもらう」について、次の二つを研究目的とする。

- a. 受け手の受益を表す「てくれる」と「てもらう」では何が違うのか。
- b. 依頼でなぜ「てくれる」を使用すると丁寧度が落ちるのか。「てくれる」の「丁寧な感じ」の不足とは、どのような事か。

本研究では受け手の「受益」について、「てくれる」「てもらう」で依頼をする際に依頼者側が、行為者の行為から影響を受けて以前の状態からより良く変化したと感ずることを「受益」と表現することにする。以下で、まず「丁寧な感じ」の差異を生む「てくれる」と「てもらう」の差異を、話者の依頼の発話例で認知言語学の立場から説く。次に日本語学習者が書いた依頼のEメールから「てくれる」の丁寧さの不足を分析・考察していく。

2. 先行研究と本研究の立場

2.1 先行研究

日本語教育現場では「てくれる」と「てもらう」の使い分けは、文法的に主語の立て方と「てもらう」にある使役性（行為生起の

働きかけ）というヴォイスの観点、「てくれる」の「私」への方向性で説明される事が多い。また、学習者の習得は「てくれる」が「てもらう」に先行するという（田中2005）。

孫（2013）は中国人日本語上級学習者と日本語母語話者の「てくれる」と「てもらう」での依頼を対比し、やはり学習者は、「てくれる」を多く使うと述べている。また学習者の、両表現の使用を欠く客観的な描写の傾向を指摘している。

王（2009）は、この両表現が大江（1975）他の指摘の様に主観表現でありながら、発話機能としての依頼、評価、感謝等運用の習得に問題があるとし、認知の知見を取り入れる必要性を提唱している。また個々の表現の丁寧さについて「てくれる」は「息子が結婚してくれた」の様な話者の主観による行為者への「プラス評価」が表現されると述べている。「てもらう」でも働きかけの無い「テモラウ」は「テクレル」に言い換えられるとして同様の評価含意を説く。さらに日本語では「他者の意志を明示的に表現しない方が丁寧に感じられる」として「てもらう」の間接性を挙げている（p. 126）。これは行為者の意志に対する、鈴木（1987）の主張「聞き手の私的領域」への踏み込みへの配慮が「てもらう」にある事の指摘である。

伊藤（2010）は本研究と同じ丁寧さの差異について、「教えてもらえませんか」と「教えてくれませんか」を分析している。そして、日本語母語話者へのアンケート調査結果で「てもらえませんか」を丁寧だとする回答が63.8%であったと示している。^[2] また伊藤（2010）は両表現の丁寧さの理由を説明し、依頼表現「てもらえませんか」では王（2009）と同様の私的領域の観点、「てもらう」と依頼する受け手の話者の立場には依頼と同時に義理（返礼）も含意される事、可能形「てもらえる」の使用により行為実現の可能性を問うので「てくれる」より間接性が高いとい

う理由を示している。一方、「してくれませんか」では「てもらう」にある働きかけ性が「てくれる」には無く、行為者の意志による受益付与行為であるため結果的に丁寧だという見方を挙げている。

2.2 先行研究の問題点

先行研究での両者の丁寧さをまとめると、「てもらう」依頼の丁寧さには伊藤（2010）が挙げた3つの観点がありこれらは依頼をする際の丁寧さとしてまとめられる。「てくれる」の丁寧さは、王（2009）が挙げた「してくれた」行為者へのプラス評価で、伊藤（2010）は好意的行為の意志の現れが丁寧だとしている。但し王（2009）は「てもらう」にも行為者へのプラスの評価があると言う。

しかし、ここでは「てもらう」での行為者を指さない丁寧さと、行為者を明示的に評価する丁寧さの指摘という矛盾がある。また、王（2009）が述べる行為者への評価が「してもらった」にもある事は、「てもらう」の行為者を指さない間接的丁寧さと矛盾する。さらに、「依頼」の際に日本語母語話者が「てもらう」の方が丁寧だとする理由、言い換えるとなぜ「てくれる」は丁寧ではないのかという疑問が残されている。

依頼の「てもらう」「てくれる」の丁寧さの対比に研究の余地があることを受けて、本研究での分析観点を次に説明する。

3. 依頼の「てくれる」「てもらう」の分析観点

本研究では話者「私」の依頼に二つの側面が認知され、「てくれる」「てもらう」の話者の依頼<事態把握>が異なっていると考える。まず本研究の分析の立場を挙げ、次に本研究が考える「てくれる」「てもらう」の話者の認知の差異を説明する。

3.1 認知言語学の観点からの分析

文法的な観点では、「てくれる」には働きかけが無いとされるが、発話機能の依頼では「てくれる」を使い、文末を（否定）疑問文にする、イントネーションを上昇させるなど、様々なストラテジーで行為者への働きかけを表現している。本研究では「てもらう」「てくれる」での相手への依頼で、文法的な分析ではなく王（2009）と同様、認知言語学の観点から使い分けの意識を分析する。

池上（2007:189-190）は認知言語学の観点から「日本語の（筆者加筆）話し手は自分が臨場している事態の中に身を置いたまま、その視座から事態把握をする」と説明している。本研究では、話者「私」が依頼という一連の事態、すなわち「私」が依頼する時、依頼によって受益した時に、「てくれる」で表現する場合と「てもらう」で表現する場合とはどのような差異があるのかを、実際の発話場面から探っていく。ここで述べた「依頼という一連の事態」について本研究の考え方を次に説明する。

3.2 本研究での依頼の「てくれる」「てもらう」の考え方

まず、本研究では「依頼」を「話者が他者行為者に話者のために行為の労を提供すること」すなわち行為者が行為をする際には何らかの負担を伴う事とする。そして本研究で考える依頼という事態は、話者「私」の認識の中で、これから「依頼する（働きかける）」〈受益未実現時〉の受益事態と、他者から「受益した結果」の〈受益既実現時〉の受益事態の二面が「話者『私』の受益」という事態としてひとまとまりとなっているという見方をする。そして日本語話者や書き手の「私」（以下「話者『私』」とする）が依頼で〈受益未実現時〉に「これから受益する」のか、依頼で〈受益既実現時〉に「受益した」のかで認識に差があると考え（関根2014）。次の話者「私」の依頼の（2）〈受益未実現時〉と（3）〈受益既実現時〉の認識差を見よう。

- (2) <受益未実現時>バスの中で依頼する。
- a. 私に席を譲っ てくれませんか。
 - b. 私に席を譲っ てもらえませんか。
- (3) <受益既実現時>バスの中での出来事を聞き手に説明する。^[3]
- a. その人は私に席を譲ってくれた。
 - b. 私はその人に席を譲ってもらった。

(2) の<受益未実現時>での差異は、これから依頼する聞き手行為者への働きかけ方である。(3) の既に受益した<受益既実現時>話者「私」の「てくれる」「てもらう」では、共に行為者により受益したのは行為者のおかげだという感謝を第三者である聞き手に報告している。すなわち<受益既実現時>で感謝を伝達する「てくれる」「てもらう」の丁寧さはほぼ等しく、丁寧さに差が出るのは働きかけをする<受益未実現時>だと言えるだろう。この話者「私」の<受益未実現時>の依頼の「てくれる」「てもらう」の認識差を、次節で自然会話コーパスからの発話用例から確認する。

3.3 依頼発話の「てくれる」「てもらう」の差異

<受益未実現時>の両表現のコーパスの用例 (5) は大学の職員が学校行事の打ち合わせで、学生にした依頼である。(4) は小学校の職員室で先輩教師が新参教師に試験結果の表記の仕方を説明している。

- (4) (素点を出す) 一年生は (略) 素点をだしてくれって
いってるでしょ↑ (m4744) ^[4]
- (5) 日程を決めてもらうということ、急いでお願いしたいんです。(f3270)

(4) の「てくれる」文は行為者が仕事上当然やるべき事である。その当然の行為の「素点を出す」やり方への要求である。一

方(5)の「てもらう」文は話者「私」が望む「こと(行為)」の実現を行為者に期待する発話である。つまり行為が当然か、期待かという差異がある。依頼したのに行為者の行為が行われなかった「受益『結果』未実現」事態での「てくれる」文「てもらう」文も比較しよう。

(6)は話者の友達が、プロ野球チームの選手達に直接サインを頼んだ時の話を話者にして、話者がそれを仲間に伝えている。

(7)は行政側からの地域住民への要請に対する住民の拒否の態度を、代表者が行政に訴えた結果を、インタビューに応じて話している。

(6) [当該選手の名前] だけはねー、ぜーんぜん書いてくれなかったってー。(m1246)

(7) (行政側からの指示に従えないと訴え)

ずいぶん抵抗したが、聞き入れてもらえなかった。^[5]

(6)の「てくれる」の否定では、話者の友達が当然選手がサインするものだと思いサインを頼んだが、その選手(行為者)がサインを拒んだので友達が不満を抱き、それが現れている。(7)の「てもらう」の否定は行政側が私達住民の希望を聞き入れるという話者「私」の期待が叶わなかった残念さである。(6)は不満、(7)は残念さという差異がある。

3.4 まとめ:依頼の「てもらう」と「てくれる」の差異

依頼<受益未実現時>の「てくれる」「てもらう」文の話者の認知をまとめると、話者「私」は行為者に対して「てくれる」で行為の実現が当然の事だと見込んでいる。一方「てもらう」では、行為の実現は相手の意志決定如何であると思っている。

なぜ、「てくれる」と「てもらう」に当然性の差異が出るのか。

それは、「てくれる」「てもらう」にある機能以前の語彙の認知的意味にある。「てくれる」は「来(く)る」と同じように話者「私」に事態が向かう事を意味するダイクシスの性質を持つ(澤田2012)。依頼で行為者の行為が話者「私」に対して行われる事もダイクシスの観点で捉えられ、行為が「来る」のは当然だという認識が生ずると考えられる。一方「てもらう」は話者「私」の中で受益が「働きかけてその結果もらう」ひとまとまりの事として捉えられている(関根2014他)。しかし、受益するには行為者の行為の実現が不可欠である。そこで依頼の際に「私」は可能形「もらえる」という行為実現を期待して行為生起の可能性を行為者に問うのである。

この「てくれる」「てもらう」の使い分けを知らずに依頼した場合に、「てくれる」依頼が丁寧さに欠ける事を学習者の産出例から指摘しよう。

4. 学習者Eメール用例の分析

4.1 調査の概要

本稿での分析は、中国のある大学の日本語専攻の4年生に授業で、今日本にいる知己日本人教師への依頼のEメール作成を課題とした際の産出を用いる。分析には本動詞「くださる」を含めることにし、「くださる」「てくださる」を用いて日本人母語話者には丁寧さに欠けると感じられるメールを分析した。

4.2 学生のEメール

先生への依頼メールで「(て)くださる」を使用した文を挙げる。本研究では対比の行為b.「(て)いただく」を用いた作例を並記する。